



ついに、川西市が阪神圏で初めての 「完全米飯給食」を実現する！

医)社団 とくなが小児歯科クリニック “レオ” 理事長 徳永 順一郎

第1回 完全米飯給食実現までの歩み

はじめに

兵庫県川西市では、市内公立の小学校と特別支援学校の計17校、約9300名の給食がついに待望の“完全米飯給食”になります。今年、平成22年9月(2学期)からスタートします。兵庫県内では、宍粟市、佐用町、豊岡市に次ぎ、4ヶ所目です。最初の3ヶ所はすべて、米どころで、都市部、阪神圏では初めての快挙です。

川西市は兵庫県の最東部、兵庫県伊丹市、宝塚市そして、大阪府池田市に隣接する、人口13万5千人の大阪のベッドタウンです。これから、子どもたちは毎日「ごはん」の給食を見て、食べて、育ちます。

そこで、今回、川西市が実施決定した「完全米飯給食」に、私が所属する社)川西市歯科医師会がどんな関わりかたをしてきたかを、すこしご紹介してみたいと思います。

社)川西市歯科医師会と学校給食のかかわり

社)川西市歯科医師会は兵庫県下でも、市民への歯科保健活動は他に引けをとらないほどの展開をしてきました。昭和59年(1984年)には、「噛む・かむ・カミング 健康づくり ひとくち30回運動」を標語に、「噛むことの大切さ」を全国に発信し、人生を楽しく豊かに生きるというQ.O.L(クオリティ オブ ライフ)を、“食べる”ということ、“人間の食の原点”に真剣に立ち向かうことで広く、強くキャンペーンを展開していました。

またさらに昭和63年(1988年)には、学校歯科関係をより強化すべく、当会からの提案で、幼稚園、小・中学校側と校医・園医側との連携を密にするため、年1回、「学校歯科保健連絡協議会」が設立されました。毎年1回、2月に開催され、その会の開催数は今年度で第22回を数えます。構成メンバーは市から健康管理課、教育委員会、公立の幼稚園園長、養護教諭と小学校・中学校の校長、養護教諭。歯科医師会からは会長はじめ、執行部と園医・校医、総数120余名になります。議題は毎年、教育委員会と養護教諭部会そして歯科医師会側で、打ち合わせをし、その折々の歯・口にかかわる保健全般で、話題性のある議題を提案し、一同に介して保健講習、情報交換等をしてきました。いままでの主な協議内容としてはむし歯、歯肉炎、歯並びなどへの予防対策や学校・幼稚園内で発生した歯・口の外傷などへの対応でした。

そんな折、川西市において「学校給食と子どもの健康を考える会」が主催の講演会が催され、たまたま、私がその会に出席し、幕内秀夫先生の口から“川西市は米飯給食回数が全国ワースト10に入っていますよ”と言われ、私はと



校医をしている小学校で、生徒と一緒に米飯給食を食べている筆者

てもショックでした。実際、そのときの川西市内の公立小学校の米飯給食は週1回だけでした。

そこで、早速、その話を持ち帰り、検討した結果、川西市歯科医師会は平成11年(1999年)、私も関わって、公立小学校児童と保護者そして担任の先生たち、計13919人にアンケート方式で、「学校給食」について、教育委員会の全面的な支援のもと、大々的に実態調査をおこないました。そして報告書を作成し、各団体に配布しました。その調査結果は紙面制約の関係上、詳しくは書けませんが、簡単に述べますと、やはり“児童や保護者は米飯給食をもっと増やしてほしい”という要望が多く寄せられていることが分かりました。

そこで、学校歯科保健連絡協議会では早速、学校給食に関係した話題を多く提案し、特別講師に幕内秀夫先生はじめ、岡山大学歯学部小児歯科の岡崎好秀先生、高知県南国市教育委員会の正木敬造先生や長野県真田町(現上田市)元教育長の大塚貢先生、近畿農政局の中尾卓嗣氏をお招きして、すべて米飯給食絡みのお話をしてもらいました。その結果、将来を担う子どもたちの健康を鑑みて、ますます、米飯給食の必要性が、行政、学校関係者、保護者会、栄養士会など、関係諸団体に広く浸透し始めました。私も市長、教育長、県会議員、市議会議員ほか、学校給食に関係ある人、無い人、関係なく、機会あるごとに、“完全米飯給食にしましょうよ”“子どもたちにもっともっとご飯を食べさせましょうよ”と、無口(6口!?)な私はしつこく言い続けてきました。

ちなみに川西市の米飯給食の状況は、昭和51年(1976年)から平成10年(1998年)まで月1回、平成11年から15年(2003年)までは、週1回でした。その後、平成16年から17年まで週2回、平成18年(2006年)から今年度7月までの米飯給食回数はおおむね3回(正確には2.8回)でした(表1)。

【表1】川西市の米飯給食の状況

米飯給食	昭和51年 1976	昭和60年 1985	平成10年 1998	平成11年 1999	平成16年 2004	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008
全国平均	週0.6回	週1.9回					週3回	
国の目標		週3回						週4回
川西市	月1回			週1回	週2回	週3回		
出来事	全国的な 米余り		多田、東 谷、川西で 施設整備		久代、緑 台、桜が丘 で施設整備	加茂、多田 東、牧の 代、北陵で 施設整備		川西市 後期基本 計画

機は熟しました

近ごろの私たちの食生活は、栄養バランスの偏り、食習慣の乱れにより、生活習慣病の増加など、様々な問題が生じています。環境の変化の影響を一番早く受けるのが子どもたちです。次代を担う子どもたちが正しい食習慣や食生活の知識などを小さい頃から、きちんと学ぶ「食育」が大切です。栄養バランスのとれた米飯給食はこうした食育の場として大きな役割を果たすとともに、子どもたちの心やからだ、学力にもよい影響をもたらしてくれます。日本の食料自給率が、戦後大きく低下の一途をたどり、昭和40年(1965年)度には73%であった自給率が、平成19年(2007年)度で、38%(21年度には41%)にまで落ち込みました。

学校給食は戦後、主食をごはんからパンに切り替わり、副食も和食から洋食へと変わってしまいました。その結果、外国産の食料が多く利用され、安心安全な食の提供とはいえなくなりました。

機は熟しました。これからは将来を担う子どもたちを守るために地産地消の精神で、もう一度昔の日本の食の原点

に立ち戻り、地元産の米や農産物を利用した学校給食の実施をみんなでバックアップしていこうと思っています。またそれが日本の食料自給率向上の一助にもなります。

次号では完全米飯給食を今年度から実施するに当たり、予算など、その運営面での問題点を検討すべく、昨年8月に立ち上がった、川西市教育委員会「川西市米飯給食研究会」の中身やいろいろ今まで関わってきた管理栄養士さん、調理員さんたち、学校給食関係職員さんたちについてもお話しします。(つづく)

徳永 順一郎 (とくなが じゅんいちろう)

昭和19年大阪生まれ。昭和44年愛知学院大学歯学部卒。同年4月、財団法人ライオン歯科衛生研究所附属ライオンファミリー歯科名古屋診療所に勤務。昭和50年4月～54年3月まで朝日大学歯学部小児歯科学教室非常勤講師。昭和54年、川西市に、とくなが小児歯科クリニック「レオ」開業。昭和64年に医療法人社団となり現在に至る。厚生労働省認可小児歯科専門医。

ホームページ <http://www8.ocn.ne.jp/~f-and-h/kyusyoku/> 掲示板もご利用ください。

入会のご案内 「学校給食と子どもの健康を考える会」では学校給食の完全米飯化を願い、さまざまな活動をおこなっています。「おむすび通信」は年6回(隔月)発行します。関心のある方は会員になっていただくことをお願いします。

- 入会ご希望の方は、郵便振替用紙の通信欄に「入会希望」とご記入のうえ、年会費をお振込みください。
- 年会費 一般会員 3,000円(おむすび通信1部送付)、賛助会員 5,000円(おむすび通信5部送付)
※機関誌代・送料含む
- 事務手続き上、会費は1年分をご入金ください。(ご入会いただいた月から1年間分として扱わせていただきます。「おむすび通信」はご入会后、定期発行分からの送付とさせていただきます。)

郵便振替番号 00240-5-40418 口座名 幕内秀夫

■■ 支部案内 ■■

- 沖縄 〒901-2131 浦添市牧港 4-26-1
TEL 090 (8290) 7552
- 兵庫 〒666-0117 川西市東畦野 4-6-13
TEL 072 (795) 0365
- 愛知 〒448-0007 刈谷市東境町昭山 66-5
TEL 0566 (36) 4230
- 神奈川 〒195-0053 町田市能ヶ谷町 1486-3-206
TEL 042 (812) 7798
- 東京 〒201-0001 狛江市西野川 4-26-17
TEL 03 (3430) 6059
- 群馬 〒370-2216 甘楽郡甘楽町金井 75-6
TEL 0274 (74) 6580

発行/学校給食と子どもの健康を考える会 (F&H 研究所内) 発行人/幕内秀夫 編集/永井友茄

題字/佐藤初女 (森のイスキア) 年6回(隔月)発行

本部事務局/〒190-0002 東京都立川市幸町 1-33-15 メゾン幸 101 (F&H 研究所内)

TEL : 042 (538) 7216 FAX : 042 (538) 7217 メール : fandh-2@arion.ocn.ne.jp *本誌の無断転載を禁じます/定価 500円